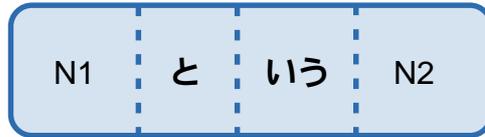


(1)



N1 : N2の具体的な名称  
ぐたいてき めいしょう

N2 : N1の類(人、場所、物、ことがらなど)  
るい ひと ばしょ もの

(2)



N2 : N1(人、場所、物、ことがらなど)の具体的な名称  
ひと ばしょ もの ぐたいてき めいしょう

## 基 本

### 例 文

- ① 「ようかん」というお菓子をはじめて食べてみました。とても甘かったです。  
かし た あま
- ② A : すぐ近くに清水寺というお寺がありますよ。  
ちが きよみずでら てら  
 B : じゃ、昼ごはんを食べてから、そこへ行きましょう。  
ひる た い
- ③ A : これは、何ですか。  
なん  
 B : びわという楽器です。日本に昔からある楽器です。  
がっき にほん むかし がっき
- ④ A : 映画でこれを見たことがあります。  
えいが み  
 B : そうですね。これは明治時代に使っていた人力車という乗り物です。  
めいじ じだい つか じんりきしゃ の もの
- ⑤ わたしが生まれたところは、「新宮」という町です。  
う しんぐう まち
- ⑥ 昔、あるお寺に「一休さん」というお坊さんがいました。  
むかし てら いっきゅう ぼう

### 解 説

- A. 構造図(1)で、N2の名前、呼び名を示すときに使う。(例文①～⑥)  
こうぞうず なまえ よ な しめ つか
- B. 構造図(1)で、N1が何であるのかをN2で示して、聞き手にわかりやすく述べるときに使う。  
こうぞうず なん しめ き て の つか  
 (例文①～⑥)
- C. 書かれた文では、N1を際立たせるために、「か ぶん きわ だ」で囲むことがある。(例文①⑤⑥)  
かこ

例 文

- ⑦ わたしは、<sup>た なか</sup>田中といひます。どうぞ、よろしくお願ひします。<sup>ねが</sup>
- ⑧ このお寺は、<sup>てら きよみずでら</sup>清水寺といひます。
- ⑨ <sup>やまもと</sup>山本さんの<sup>なまえ</sup>名前は、あきらといひます。
- ⑩ A: <sup>にほんしき</sup>日本式の<sup>にほんご なん</sup>ホテルを日本語で何といひますか。  
 B: <sup>りょかん</sup>旅館といひます。
- ⑪ <sup>にほん うき つゆ</sup>日本の雨季は「梅雨」といひて、<sup>がつちゅうじゅん</sup>6月中旬から<sup>がつちゅうじゅん</sup>7月中旬ごろです。

解 説

- D. <sup>こうぞうず</sup>構造図(2)で、N1の<sup>なまえ よ な</sup>名前、呼び名を<sup>しょうかい</sup>紹介するときに<sup>つか</sup>使う。(例文⑦～⑩)
- E. <sup>か</sup>書かれた文では、N2を<sup>ぶん</sup>際立たせるために、「<sup>きわだ</sup>」で<sup>かこ</sup>囲むことがある。(例文⑪)

先生へ

A. <sup>ようほう</sup>の用法は、<sup>はな</sup>話し手が<sup>て き て</sup>聞き手が、N1についてよく<sup>し</sup>知らないときに<sup>つか</sup>使われる。  
<sup>はな</sup>話しことばでは、「と」は「って」となることがある。  
 例 <sup>ちか</sup>すぐ近くに「<sup>きよみずでら</sup>清水寺」<sup>てら</sup>っていうお寺がありますよ。

<p>【関連項目】</p> <p>助-30 と(引用)</p>	<p>【「れんしゅう編」の練習】</p> <p>16-3 日本の歴史</p> <p>16-5 すずめのお宿</p> <p>16-6 ぜひ、わたしの町に来てください</p> <p>16-7 歌舞伎</p>
---------------------------------	---